



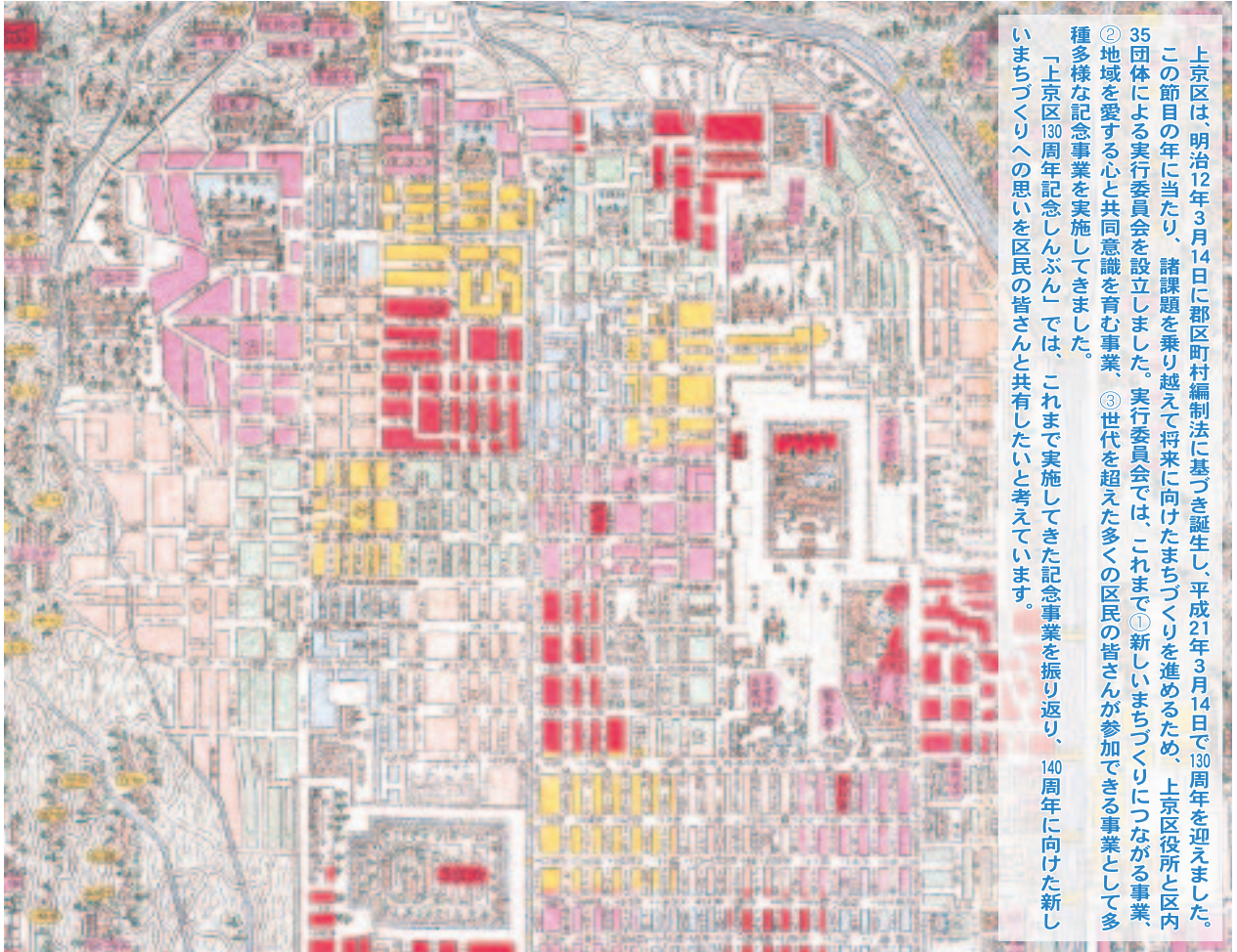
上京区シンボルマーク

# 上京区130周年記念しんぶん



上京区マスコットキャラクター「かみぎゆうくん」

市民しんぶん上京区特別号 抜き取ってお読みください



京都府区組分細図(明治16年)

上京区は明治12年3月14日に郡区町村編制法に基づき誕生し、平成21年3月14日で130周年を迎えました。この節目の年に当たり、諸課題を乗り越えて将来に向けたまちづくりを進めるため、上京区役所と区内35団体による実行委員会を設立しました。実行委員会では、これまで①新しいまちづくりにつながる事業、②地域を愛する心と共同意識を育む事業、③世代を超えた多くの区民の皆さんが参加できる事業として多種多様な記念事業を実施してきました。

「上京区130周年記念しんぶん」では、これまで実施してきた記念事業を振り返り、140周年に向けた新しいまちづくりへの思いを区民の皆さんと共有したいと考えています。

資料提供 京都市歴史資料館

## 節目の年を終えて

上京区130周年記念事業実行委員会委員長 高瀬博章



私たちのまち上京区は、歴史に磨かれた文化と伝統が暮らしの中に息づく成熟したまちであります。成熟したまちではありませんが、時代の流れと共に新しい課題も感じています。少子・高齢化や核家族化が進行する中で、現在65歳以上で一人暮らしのお年寄りは、全世帯の1割を超えております。2025年、団塊の世代が75歳を迎えるときには、一人暮らしのお年寄りが更に増えた社会が想定されます。その時に備えたまちづくりを今から進めていかなければなりません。

私は、上京区130周年記念事業を進めるにあたって、夢が二つあります。一つ目は、「自治・福祉・防災の三位一体」をキーワードとした「新しいまちづくり」に取り組めないかというものです。幸いにも次期上京区基本計画の策定と新上京区総合庁舎整備が130周年の節目の年に始まりました。次期上京区基本計画が生活者の視点に立った将来像への道筋となり、新上京区総合庁舎が自治・福祉・防災の拠点となることを願っております。

二つ目の夢は、現在の小学生、中学生、高校生、大学生が、将来のまちづくりの担い手として育ってってくれることです。そのためには、まちづくりの基礎となる地域を愛する心と共同意識を高める必要があります。130周年記念事業が、若い世代が上京区の「歴史」「文化」にふれる切っ掛けになったり、力を合わせて競い合い共に楽しむ場を提供できたなら幸いです。

節目の年の終わりに当たり、晴れた夢の種がやがて住み続けたいまちとして結実するよう、一人ひとりが社会をしっかり見つけ、出来ることをひとつずつ始める環境づくりに取り組む決意に身が引き締まる思いです。

## 祝辞

京都市長 門川大作

上京区が誕生した明治の初期、京都の社会状況は必ずしも順風満帆だったわけではありません。その少し前の明治維新によって、京都は千年以上続いた都の地位を失い、大変な危機を迎えていたのです。多くの人が、京都は都市の活力を失っていくと危惧しました。特に御所のある上京の地域の衰退は、避けられないと思われました。

しかし、上京の皆様の高い志、誇り、気概が、歴史のすゝ書きを書き換えました。

この危機の中、上京では番組ごとに地域の皆様が集まり、「まちづくりは人づくりから」と、日本初の公立小学校となる番組小学校が創られました。また、西陣を中心に繊維産業の近代化が意欲的に進められ、これにより京都の産業は飛躍的な発展を遂げました。同時に、質の高い市民文化が育まれ、産業と暮らしが結びついた「職住共存」の活力あるまちづくりが進みました。ほかにも幾多の先進的な取組が重ねられました。

そして、そうした人づくり、ものづくり、文化創造の、熱い思いと行動が、京都の危機を救ったのです。

この度、区民の皆様が主役となって、上京区の魅力を生かした多彩な取組を展開いただいた130周年記念事業におきましても、優れたまちづくりを進めてこられた皆様の高い志、誇り、気概を、力強くお示しいただきました。

今日、世界、日本、そして京都が、厳しい社会経済状況など歴史の困難に直面しています。しかし、そんな歴史のすゝ書きを書き換えられるのが、上京区に象徴される京都の地域力、人間力、文化力、歴史力だと確信しています。

引き続き皆様と共に、徹底的に困難に立ち向かい、「日本に京都があつてよかった」、「いつまでも上京区に住み続けたい」と実感できるまちづくりを進めたいと存じます。

共に汗しながら未来を切り拓いて参りましょう。これからもよろしくお願ひ致します。

